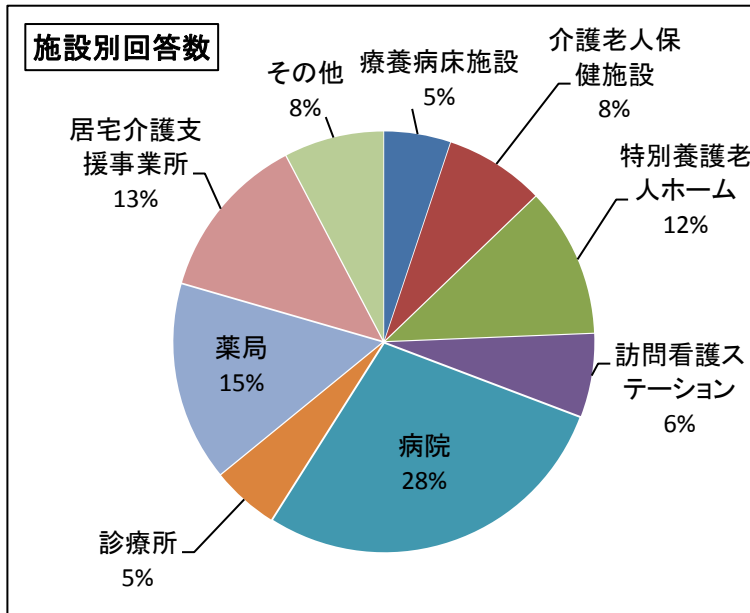


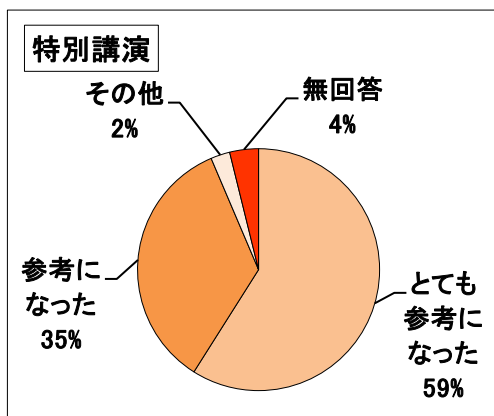
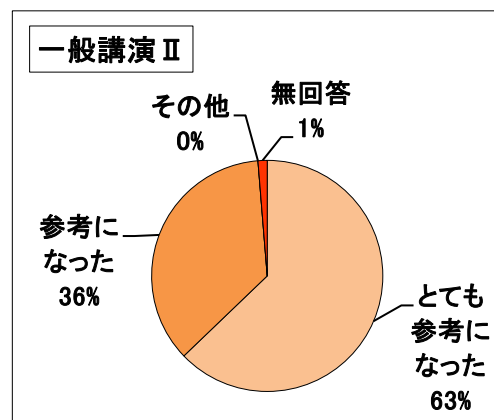
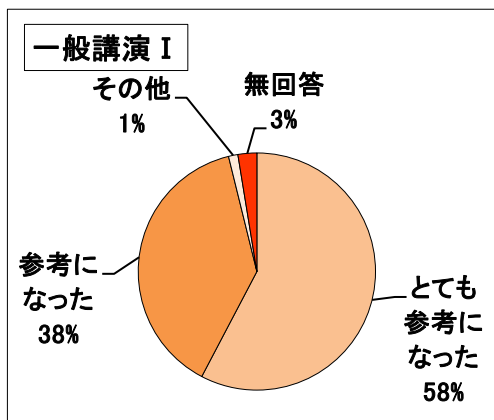
第9回慢性期医療を考える会 ～アンケート結果～

参加者数 91名
 回答者数 78名（回収率 85.7%）

1 貴院、貴施設について教えてください。



2 本日の講演について、それぞれご感想をお聞かせ下さい。



<講演総評>

- ・家庭に眠っている残業により混乱している患者様へのサポートがうまくできると良いと思います。
- ・残業の問題も終末期医療の意思決定の問題も本当に身近な問題で、仕事としてだけでなく、自分のこととして考えさせられた。
- ・終末期医療の代理意思決定について、しっかり考えておかなくてはならないと思った。自分の意思をしっかり決め、家族と話し合い、書面に記しておきたいと思った。近いうちに必ず実行したい
- ・各職種や地域のネットワークを使用して様々な方向から当事者を考えることが大切だと感じました。
- ・特別講演を多職種で聞いたことが良かった。同じ方向を向いて連携していけたらと思う。いいタイミングで良い会だった。

<今後の講演内容の希望>

- ・さらに地域包括ケアシステムをすすめるには具体的にだれが何をするか。
- ・在宅での看取りについて
- ・ターミナル期(終末期)のケアについて(いろいろな職種によって視点は違うと思う。いろいろな職種の意見や考えを聞いてみたい。)
- ・小規模・複合・定期巡回・訪看など今後の在宅介護の中心となる事業所の実態。
- ・急性期病院⇄療養型病院の連携・ネットワークづくりについて

<現在の問題点、病院・行政に対する意見>

◆問題点

- ・入院している患者の家族へのフォローをどのようにしていくか。家族が在宅医療を受け入れる体制どのように確立していくか。家族が患者に対し無関心になりつつある。
- ・各支援チームの横のつながりが進んでいない。
- ・在宅、在宅と言うが、質の良いサービスを提供できる機関が本当に現在足りているのか？あるのか？在宅で生活することによる本当の不安をくみ上げられているのか？とても疑問。

◆国・地方行政機関への意見

- ・予算的なものも、ただ削るのではなく、本当に必要なところにかけるべき。介護現場も国の予算が削られて安いで、ケアは高度なものを求められる。プレッシャーはすごく大きい。
- ・在宅医療に時間・手間がかかりますが、診療報酬が見合っていない点が多々あります。取り組みをさらに進めていける改定がなされることを希望します。
- ・医療でも介護でも人手不足を感じます。働いていない有資格者を現場に戻すようなアイデアがあれば良いと思います。